

家計イベントの解説

資産運用の大切なポイント 第一回 《取り組み方について考えてみましょう》

今回は資産運用を取り上げます。現在、世界的に大不況の風が吹き荒れていて、こんな時に資産運用を取り上げて良いのか？などと、お叱りを受けそうです。しかし、今だからこそお伝えしたいことがあるのです。さあ、一緒に見ていきましょう。

皆さんは、ご自身の金融資産をどのようにされていますか？多くの方は、銀行などの預貯金¹⁾として保有されているのではないのでしょうか。そして、「定期預金が満期になります。預金は金利が低いですから、ここに有利な投資信託があります。預金金利の何倍もの分配金が出ます。お買いになったら如何でしょう。」などと、窓口の人に言われたことはありませんか？こんな時、皆さんはどのようにされますか？



近くの公園の桜

お金には、いろいろな誘いの手が伸びてきます。中には詐欺的なものも混じります。しかし、これら避けたり逃げたりするのではなく、むしろ、ご自身の資金・資産の運用について前向きに考える姿勢が良いと私は考えています。そのためには、中立的で信頼できる相談相手を常に確保しておくことがとても大切です。そして、アドバイスを受けながら、ある程度の勉強も必要となるでしょう。

そうすれば勧誘などを受けても迷うことはありません。私は、このような相談を受けた場合、多くは「売りに来たものは買わないこと」とアドバイスしています。基本的な考え方はこれなのです。

次回レポートで触れる予定ですが、資産運用をしっかりとなさるか、そうでないかでは、人生の後半においていわゆる老後資金に大きな違いを生じます。すなわち、これは一生の重要な課題なのです。この点が、宝くじや、競輪、パチンコなど、いわゆるギャンブルとは異なるところです。

投資²⁾というのは、資本主義経済の根幹をなすもので、投資がないと会社が起こせません。事業を営んでいらっしゃる方には、投資というのは比較的身近な言葉ですが、サラリーマンにとっては、縁遠い言葉でしょう。しかし、銀行にお金を預けている場合、銀行はこのお金を会社などに貸し付けて利息を取ります。間接的に、会社にお金を貸して利息を受け取っていることになります。これは貸し付けで、もちろん投資とは異なりますが、良く似た行為です。ですので、投資ということは、そんなに特別なことではないのです。まずはこの点を理解する必要があります。

少し具体的な話しにはいりましょう。「株を安く買って高く売る」、投資というと、まずはこんな状況を連想されるのではないのでしょうか。これって正しいのでしょうか？皆さんと一緒に、このことを考えてみましょう。明日、株価が上がるか下がるか誰にも予測はできませんね。いわば上がる確率と下がる確率は、いつも50%ずつで同じということです。ということは、安く買って高く売れる確率は50%で、その逆が起こる確率も同じだけあると考えねばなりません。しかも、株の売買には手数料がかかります。また株市場の参加者は、外国人(約65%)、信託銀行、機関投資家、個人(約20%)など様々ですが、しかしその多く(取引額の80%以上)は、いわゆるプロの投資家です。誰かが儲ければ、その分お隣さんは損をするという世界で、我々個人が、儲かるような売り買いをすることはとても難しいことです。ほとんど“無いこと”だと言っても過言ではありません。

では、資産運用(投資)の意味はどこにあるのでしょうか。利益の源泉はどこにあるのでしょうか。世界経済は上がり下がりしながら、成長をしています。ここにきて、大きな落ち込みで、世界経済は様相が大きく変わるように言われていますが、しかしそれでも成長を続けると考えられます。この経済の成長が、投資の利益の源泉なのです。言い換えると、経済界や個々の会社が成長する過程で生み

出す利益を、投資家が受け取るということです。

過去の日本株価のデータを見てみましょう。TOPIX(東証株価指数)は1968年に数値を出し始め、この時は100P(ポイント)でした。40年間後の2007年にこれが約1,300³⁾Pとなっています。40年間でTOPIXは約13倍になりました。配当金を含めて計算すると、平均して毎年約8.0%の利益を挙げたこととなります。一方、この間の消費者物価の上昇は約3.3倍(毎年約3%)です。この数字をみれば、株価の上昇と配当金が、投資の利益の源泉であることが分かります。要するに売り買いする必要はないということなのです。極端に言えば、買ってじっと持ちつづけければ良いということです。とても簡単なことですね。

言い換えると、資産運用(投資)というのは、株などをいかに売買するかではなく、“いかに保有するか”です。すなわち、どのような形で資産を持てばよいのか、ということなのです。こんな話は聞いたことがないと思いませんか。ここで、あえて言わせて頂きますが、株などをじっと持ち続けられては、それを取り扱う証券会社(今では、銀行も郵便局も含まれます)やそこに勤めている人たちが困ります。ですから、売買を勧めるのです。そう考えて間違いはありません。

資産運用の基本的な考え方、あるいは取り組み方をご理解頂けたでしょうか。投資対象はもちろん株だけではありません。それ以外にも、預貯金、債権(国債、社債)、外貨、それに投資信託というものもあります。これらのいわゆる金融資産でも考え方は同じことです。ご自身の判断基準で、“如何に保有するか”です。次回は、これらの金融資産の性格やとらえ方などを含め、資産運用の方法やメリットなどについて具体的にお話できれば、と考えています。

1): 日本では約55%の金融資金が預貯金として保有されています。米国では約13%です。

2): 投資と資産運用は、ほぼ同じ意味です。資産運用は、利益を得ることを目的として資金を活用(運用)すること。その代表的なものとして投資があります。投資とは、資金をある事業や子供といった特定の対象に投入すること。でしょうか。

3): 2007年は日本株価(東証株価指数 TOPIX)が1,800p(ポイント)から900pくらいまで急下落しました。平均を取って1,300pとしています。本日現在 TOPIX は830p程度です。この数値を用いれば、40年間で配当金を含めて毎年平均約6.5%となります。しかし、TOPIXの上昇を平均的にみると、8.0%という数値は、むしろ妥当な値と考えられます。逆に言えば、本日現在 TOPIX は1,400pレベルにあらねばならないということになります。今の不況を脱却した暁には、TOPIXがこのレベルになることを期待しましょう。

株式状況と解説

日本の株式市場は、昨年10月半ばより7,500円から9,000円のボックス相場を形成しています。中期的な動向を示す25日移動平均線がここにきて上向き傾向となって来ました。これは米国の経済がパニック的状態から、ある意味コントロール可能な状況に入ってきたためと考えられます。实体经济に明るさが見え始めるには、あと数か月を要するでしょうが、近いうちに、一旦、9,000円を上を抜ける可能性が高いと予測されます。

なお、この記述は株式等の売買をお勧めするものではありません。売買の判断はご本人でなさってください。

お知らせ

ホームページを一部リニューアルしました。

下記のURLからスズタカFPオフィスのホームページをご覧ください。

以上

このレポートの記述は、株式、保険等の売買を推奨するものではありません。株式、保険等の売買は自己の責任において行って下さるようお願いいたします。

ご意見、不明点など御座いましたらお気軽に連絡下さい。なお複写、転載はご遠慮下さい。

発行人: スズタカFPオフィス 代表 鈴木隆志 茨城県つくば市東新井4-2メゾンヴェールつくば612号

携帯: 090-4423-9147 Tel, Fax: 029-861-0778 E-mail: suzu@suzutaka.org URL: <http://www.suzutaka.org>